

令和6年度予算

第49期（令和6年度）予算の件
(2024年4月 1 日～2025年3月31日)

科目名	第49期予算				
	49期予算	49期概算	概算比	48期決算	決算比
純売上高	157,680	157,680	0	158,112	-432
売上原価	78,436	76,391	2,045	72,280	6,156
売上総利益	79,244	81,289	-2,045	85,831	-6,587
一般管理費	12,688	12,606	82	11,885	803
租税公課	3,874	3,874	0	3,880	-6
減価償却費	43,947	41,895	2,052	37,102	6,845
販売費・一般管理費	60,509	58,375	2,134	52,867	7,642
営業利益	18,735	22,914	-4,179	32,963	-14,228
営業外収益	264	0	264	302	-38
営業外費用	187	187	0	187	0
経常利益	18,812	22,727	-3,915	33,079	-14,267
特別利益	0	0	0	0	0
特別損失	300	300	0	300	0
税引前当期純利益	18,512	22,427	-3,915	33,079	-14,567
法人税等	7,590	9,195	-1,605	11,354	-3,764
当期純利益	10,922	13,232	-2,310	21,724	-10,802

- 【主な増減の理由（対概算）】
- ①売上原価（概算比2,045千円増）
- ・ 労 務 費：若年層を中心とした賃金改定により概算時比880千円増。
 - ・ 電 力 費：再エネ賦課金の改定や燃料調整費の動向を踏まえ概算時比1,360千円増。
 - ・ 支払修繕費：早期発注工事の実績を反映し概算時比500千円減。
 - ・ 旅費通信費：監視カメラ新設に伴う回線使用料等を追加計上し概算時比186千円増。
 - ・ 保 険 料：保険金額の見直しに伴う保険金額の変更契約のため概算時比119千円増。
- ②減価償却費（概算比2,052千円増）
- ・ 減価償却費：昨年度末に設置した揚湯ポンプ用インバータの償却費の追加計上により概算時比2,052千円増。
- ③営業外収益（概算比264千円増）
- ・ 産総研の実証実験ハウス設置に伴う土地賃貸契約締結により概算時比264千円増。

第 49 期(令和6年度)予算編成概要

1. 積算基準数値

- (1) 温泉供給量は供給契約に基づき、 $5.5 \text{ m}^3/\text{分}$ としております。

内訳

スパリゾートハワイアンズ	$3.5 \text{ m}^3/\text{分}$ ($1,839,600 \text{ m}^3/\text{年}$)
いわき市	$2.0 \text{ m}^3/\text{分}$ ($1,051,200 \text{ m}^3/\text{年}$)
計	$5.5 \text{ m}^3/\text{分}$ ($2,890,800 \text{ m}^3/\text{年}$)

- (2) 温泉使用負担金は、 1 m^3 当たり消費税込みで 60 円とします。

内訳

スパリゾートハワイアンズ	$1,839,600 \text{ m}^3 \times 60 \text{ 円} = 110,376,000 \text{ 円}/\text{年}$
いわき市	$1,051,200 \text{ m}^3 \times 60 \text{ 円} = 63,072,000 \text{ 円}/\text{年}$
計	173,448,000 円(内消費税 15,768,000 円) 税抜き 157,680,000 円

- (3) 労務費算出は現員7名で算出する。

- (4) 電力使用料金算出

- ・電力使用契約は「高圧・季節別:時間帯別:電力 S 型」とします。
- ・電力使用量及び電気料金は過去の実績及び今般の電力を取り巻く情勢等を考慮し算出、設定します。

- (5) 支払修繕料

- ・主な修繕工事

- ① 送湯ポンプ周波数制御装置更新工事 (4,350 千円)
- ② 揚湯ポンプ周波数制御装置更新工事 (3,550 千円)
- ③ ポンプ場内揚湯管(バルブ等)更新工事 (4,500 千円)

など、揚湯・送湯設備の維持修繕に係る費用を計上します。

(6) 設備投資

・主な設備投資

- ① 揚湯井戸二重ケーシング改良工事 (29,500 千円)
- ② 送湯ポンプ周波数制御装置(INV)新設工事 (17,150 千円)
- ③ 揚・送湯ポンプ遠隔操作システム設置工事 (9,700 千円)

など、揚湯・送湯設備の安定化・効率化に関する設備投資を行います。

2.今後の検討課題

(1)現状

昭和 51 年の創業以来、これまで温泉の安定供給に努めてまいりましたが、揚湯・送湯設備の長期使用により老朽化の進行が見受けられることから、その対策に積極的に取り組んでおります。また、現在の温泉供給量の 5.5 m³/分に対応した各設備の点検及び修繕・更新などを実施し、より効率的・効果的な運転管理を行い供給の安定化を図っております。

(2)対策

①揚湯・貯湯設備

揚湯管の定期的な修繕や揚湯ポンプの点検整備と合わせて、揚湯ポンプの計画的な更新を行ってまいります。また、東日本大震災の余震により上昇した温泉水位は一定の水位を保っており、これらの揚湯環境の変化にも適切に対応した設備更新に努めてまいります。貯湯設備におきましては、引き続き耐久性を向上させるための点検・調査を行い、適切な対応を実施してまいります。本年度は場内揚湯管のバルブ交換等を行います。

②送湯設備

送湯管路の老朽化・耐震化対策として、2期線(バイパス)化を継続して推進してまいります。また、1期線の送湯管路の現況調査を行い状態の把握に努め、恒久的な供給を図るための対策を講じます。

③ポンプ場の運転管理

ポンプ場の効率的・効果的な運転管理を進め、管理費の削減に努めるとともに、常に顧客の期待に的確に対応できる運転方法及びシステムの構築に引き続き取り組んでまいります。その一環として本年度は揚湯ポンプ及び送湯ポンプの周波数制御装置の新設・更新工事を行うとともに、ポンプの遠隔操作システムの導入・運用を開始します。

④監視制御システムの AI 技術の活用

将来のポンプ場更新に併せ、現在の揚湯・送湯設備の監視システムや制御システムについて、抜本的な見直しを図り、AI 技術の活用によるシステム構築の検討を進めてまいります。